

行政経営プラン推進委員会議事録

日 時：平成26年8月20日（水）午後1時から午後5時まで

場 所：市役所7階 第3委員会室

出席委員：岩崎委員長、赤堀委員、野津委員、五十嵐委員、戸田委員、服部委員、碓委員、
堅田委員、小林委員

欠席委員：岩田委員

1. 副市長あいさつ

お忙しい中、行政経営プラン推進委員会に出席していただき、ありがとうございます。

行政経営プランは、平成23年度に策定させていただきました。その趣旨は、不要な経費を削り効率的な行政を進めながらも、市の施策に対する市民の皆様の満足度を上げていくことにあります。

皆様方には3年間の任期でお勤めいただくわけですが、是非とも忌憚のないご意見をいただきまして、この推進委員会が活発な活動につながっていけばと思っております。私も市民満足度をあげるよう取り組んでいきたいと思っております。皆様からいただいたご意見を活かしまして、岩倉市の発展につなげていければと考えていますので、よろしくお願いたします。

2. 自己紹介

岩崎委員、野津委員、五十嵐委員、戸田委員、服部委員、赤堀委員、碓委員、堅田委員、小林委員の順で自己紹介を行った。

3. 委員長及び副委員長の選出

野津委員より岩崎委員を委員長に推薦する発言があり、満場一致にて岩崎委員が委員長に選出された。その後、岩崎委員長から赤堀委員を副委員長に推薦する発言があり、赤堀委員が副委員長に選出された。

4. 委員長あいさつ

岩倉市のおもしろいところは、市民の方から忌憚ない意見をいただいているところです。無作為抽出された市民の方々に委員をお願いする取組みは、全国的にみてもあまり例がありません。

この委員会では、市民満足度をどう上げていくか、財政指標はどうなっているか、行動計画のチェックという3つの事項について議論を行います。限られた時間ではありますが、司会進行を中心に行っていきますので、どうかよろしくお願いたします。

5. 議事について

(1) 経営指標1「岩倉市の施策に対する市民の満足度」について

行政課職員から資料に基づき説明があった。

委員：去年と比べて今年は回答数が少なくなっている。アンケートの回収率が低下した原因を調査してはどうか。市が分析を行う上で必要な回答数を設定し、その数以上を回収できるようにアンケートの送付を行ってはどうか。

委員長：回収率30%は残念かもしれない。回答の督促を検討した方がよい。

委員：回収したアンケートは6割が女性で、4割は高齢者と偏りがあるが、これを岩倉市民全体の意見として良いか。回収率の低い年齢層には多めにアンケートを送付してはどうか。

委員長：男性や若年層からアンケートを多く回収し、分析に用いるアンケートの性別・年齢別構成比を人口構成比に近づけていくことは検討していく必要がある。ただ、回答しないというのも表現方法の一つであることには留意したい。

委員：アンケートの項目は41もある。後ろの方の項目の回答はどんどん適当になっていくと思う。そのようなアンケートを細かく分析する必要があるのか。満足度の平均得点の細かい目標値を設定しているが、もっと大きく市民が満足しているかどうかを捉えることが重要ではないか。ここまで細かく分析するのであれば、性別・年齢層別の満足度なども出したほうが良いと思う。

委員長：41の項目に示されているのが現在の岩倉市の全行政分野である。満足度の平均得点については、これを上げることに必ずしもこだわっているわけではなく、参考にしていく。性別・年齢層別の満足度を出すのも一つの方法である。

行政課：今回のアンケートの項目は市民意向調査のアンケート項目を参考に作成している。平成27年度までは今回と同じやり方で実施しなければならないが、それ以降の実施については検討したい。

委員：校区によって満足度の違いがはっきりとしている。東小学校区は高く、五条川小学校区は低い。低い校区についてピンポイントで改善を行っていけば、全体的に満足度が上がっていくのではないか。

委員長：校区によって満足度に差が出ていることについて、何か心当たりはあるか。例えば、公共交通の利便性の満足度は校区によって大きな差があるが、この理由は説明できるか。デマンドタクシーの結果は反映されていないのか。

行政課：駅に近いかどうかで差が出ていると考えている。今回のアンケートにデマンドタクシーを実施した結果が反映されている様子はない。

委員長：ごみ収集・処理体制の満足度にこれほど差が出るのはなぜか。

行政課：東小学校区の満足度が高いのは、団地が多い地区で建物のすぐ下に集積所があり、ごみを出しやすいからだと考えている。

委員：五条川小学校区や南小学校区は旧市街地であり、道が狭くてパッカー車が入れないため、集積所まで長い距離を歩かなければならない人がいることが満足度の低さにつながっている。

委員長：満足度には地域性が反映されている。

(2) 経営指標 2 財政指標について

行政課職員から資料に基づき説明があった。

委員長：経常収支比率は、100%に近いほど決まったことにしかお金を使わず、自由に使えるお金がない状態を示すもので、低ければ低い方がいいと言われている。将来負担比率が今後増えていく見込みなのは、小牧岩倉衛生組合環境センターのごみ処理施設の更新が大きく影響している。実質公債費比率が急に上がらないのは、3年間の平均をとっているからである。

委員：経常収支比率の1位、2位はどこか。

企画財政課：経常収支比率は近隣市でいえば小牧市、大口町、刈谷市が上位に挙がってくる。小牧市や大口町は借金以上に基金の貯えがあるため、将来負担比率は数字として出てこない。

委員長：数字でみると、岩倉市は愛知県内では下位の方だが、全国的に見れば決して悪くない。

委員：小牧市などは大企業から多額の税収を得られるから上位なのか。

総務部長：多額の税収があるのが大きい。

(3) 行政経営プラン行動計画について

①秘書課

秘書課職員から資料に基づき説明があった。

1. 市ホームページの充実について

委員：近隣市町村と比べてホームページへのアクセス数は多いのか。アクセス数を増やしたい理由は何か。

秘書課：近隣市町村とは規模も違うため、アクセス数の調査は行っていない。多いか少ないかは去年のアクセス数を基準にしている。アクセス数が多くなればそれだけ関心を持ってもらえた、ホームページを活用してもらえたということなので、数を増やしていきたいと考えている。

委員：アクセス数というのはページを切り替えるごとに1回とカウントするのか。どのページがよく見られているのかの調査は行っているか。

秘書課：トップページにアクセスしたときを1回とカウントしている。現状のシステ

ムではページ毎のアクセス数の調査はできない。ツールが見つければページ毎のアクセス数がカウントできるようにしていきたいが、予算の問題もあるため、近隣市町の状況も踏まえて研究していきたい。

委員：どのページがよく見られているか把握し、そこにすぐアクセスできるようにするとともに、必要な情報を検索しやすいホームページにしていく必要がある。

秘書課：現在ホームページの大幅なリニューアルは考えていないが、見やすくなるよう検討を加えていく。

委員：平成25年度の実施効果にある「迅速、詳細に」とは何を基準にしているのか。

秘書課：夏まつりを開催するとの判断を行った数分後にはその旨をホームページに表示した。担当課で決まったことがあればすぐに情報を表示させることができる。ホームページに掲載できる量も多く、細かい情報まで掲載することが可能である。

委員：夏まつりの件は迅速だったが、それ以外のところでは迅速さにムラがあると思う。詳細さについては、他市と比較してホームページ上の情報量が少ない。トピックスの更新頻度も低く、岩倉市のホームページは迅速・詳細なレベルには至っていないと思う。

委員長：実施効果で迅速さや詳細さを謳うならば、もう少し明確な根拠が必要である。

委員：秘書課だけで「迅速、詳細に」行っていくのは限界がある。他課に働きかけ、職員全体にホームページの重要性を認識してもらうとともに、各部署で発信する情報を作ってもらうなどの仕組みづくりに取り組むとよい。

秘書課：ページ自体は担当課が作成し、秘書課はその管理をしている。

委員：ホームページの重要性について職員への意識喚起を行ってほしい。

2. 窓口サービスの向上について

関連質疑なし

29. 市民との協働による広報紙作りについて

委員：広報いわくらの電子版をつくってほしい。生涯学習関係の応募にしてもネット上でできればありがたいと思う。

秘書課：広報いわくらはホームページ上で見るができる。

委員長：三重県は県の広報を完全電子化するべく取組みを進めている。今後の動向に注目するとよい。

委員：電子化の話は、ホームページに情報を掲載した場合に、市民の何割くらいが閲覧するかをある程度把握した上で進めていく必要がある。

30. 広聴活動の一層の充実について

関連質疑なし

58. 効率的な行政サービスを展開していくことのできる組織運営と市民にわかりやすい組織づくりについて

関連質疑なし

59. 職員の能力開発について

関連質疑なし

60. 効果的・効率的な定員管理について

委員：再任用職員の持つノウハウを若手職員に引き継ぐためにどのような取り組みを行っているか。

秘書課：1日の業務の中で再任用職員に若手職員を指導してもらうことで、ノウハウを引き継いでいくというやり方をとっている。

委員：再任用職員の職務内容として、雇用契約の中に、若手職員への知識・技術等の引継ぎを入れているか。

秘書課：契約の中には入れていないが、研修を実施し、再任用職員の役割は若手職員への知識・技術等の引継ぎであることを認識してもらっている。

委員：再任用職員の給与は定年前より下がるのか。

秘書課：大幅に下がる。

委員：新規採用と再任用の職員数を合わせると退職者数よりも多くなる。この数字だけみると、市が職員数を増やしていると思われるおそれがある。嘱託職員やパート職員がどの部署にどれだけ配置されているかを示した上で、それを計算に入れて必要最小限の人数を新規職員・再任用職員として採用していることを説明するべきである。

委員：現在の職員数は岩倉市の規模から考えて適正なのか。

秘書課：同規模の自治体と比べて、保育園や児童館などの福祉部門の職員数は少し多く、事務職の職員数は少ない。トータルで見ると、同規模の自治体と比べて少ないと考えている。定員については会議の場で決めており、適正だと考えている。

委員長：保育園の職員を多くし、市で消防本部も抱えていると、事務職の職員は人数的に大変だと思う。

委員：比較的災害の起こりにくい岩倉市が単独で消防本部を持つことは、いいことだと考えているか。

総務部長：数年前に消防の広域化の議論はなされたが、結局話がまとまらず、引き続き市が単独で消防本部を持つことになったという経緯がある。

委員：時間外勤務時間数が多いように思う。職員に対するケアはどうなっているか。

総務部長：以前に比べて正規職員の数がかなり減っていることや、地方分権で地方の仕事がかなり増えてきているといった事情がある。

秘書課：時間外勤務手当支給対象の職員1人あたりの1か月の時間外勤務時間数の平均は6時間である。ケアについては、特定の職員に時間外勤務が偏らないよう仕事を割り振る、毎週水曜日をノー残業デーとする、育児中の職員に一斉退庁を促す、時間外勤務の多い職員には健康相談を受けてもらうなどしている。

②企画財政課

企画財政課職員から資料に基づき説明があった。

10. 民間活力等の検討

委員：進展が遅い理由は何か。

企画財政課：自治基本条例を策定したことで協働のあり方や新しい公共といった新しい概念が出てきたが、ガイドラインが欠けており、職員で構成した協働のあり方検討委員会で検討を行っている。市民参加条例の策定にあたり市民参加手続について規定していく必要もある。

委員：本年度以降、具体的な取組み内容を明確に掲げて取組みを進めてほしい。

委員：協働のあり方検討委員会の構成は市職員のみだが、委員の中にNPOや民間事業者の方が入っていてもおかしくないと思う。

企画財政課：市民参加条例の検討委員会には市民活動団体の代表や市民の委員もいるため、そこでの意見を吸い上げていきたい。

委員長：市民参加条例の検討委員会では協働のあり方について市民活動団体と議論していくことになる。協働のあり方検討委員会を、協働のあり方についての市としての考えをまとめる場にしていくのもいいと思う。

11. 市民プラザの民間活力の導入

関連質疑なし

20. 施策評価の導入

関連質疑なし

24. 自治基本条例の制定

関連質疑なし

31. 公共情報の発信

委員：ほっと情報メールは、市が災害に関する情報を提供するものなのか。
企画財政課：登録している人にメールを送るもので、災害情報だけでなく子育て関連の情報や議会の情報など、提供を受けたい情報を選択できるようになっている。
委員：災害情報の提供は国も行っているが、それを市で肩代わりするのか。
総務部長：肩代わりではなく、市の避難情報や避難所の開設など市が伝えたい災害情報を提供するものである。
委員：ほっと情報メールにかかる年間費用はいくらか。
企画財政課：ほっと情報メールに関しては、費用はかかっていない。
委員：費用がかからないということであれば、本年度計画の中で利用者数を増やす取組みも行っていきたい。
企画財政課：広報やホームページ等で登録の呼び掛けを行っている。今後もより多くの方に活用してもらえよう取り組んでいきたい。
委員長：ほっと情報メールと学校が出す不審者情報は統合できないか。
総務部長：今のところできない。別々の運用となる。
委員：職員は全員ほっと情報メールに登録しているのか。
企画財政課：災害時の緊急配備の呼出しはこのメールで行うため、基本的には全員登録している。

3 4. 人口増加策と新たな企業の誘致による市税収入の増について

委員：人口増加策として、岩倉市で子どもを育てる具体的なメリットを打ち出していくことも有効だと思うが、その取組みは行っているか。
企画財政課：子育て情報誌を作っており、これを PR していきたい。
委員：名古屋からのアクセスが良いのが岩倉市の一つの魅力である。
総務部長：利便性の高さは大きな強みであり、これをイメージアップに活かしていきたい。
商工農政課：電車から見える位置に名古屋からのアクセスの良さを宣伝する看板を設けている。
委員：ふるさと納税に関して、岩倉市の特産品にはどんなものがあるか。
企画財政課：名古屋コーチンがある。
委員：岩倉市には名古屋コーチンのイメージがない。コーチンが特産品であることを市全体の共通認識にして取り組まないと、市の認知度は上がっていかないと思う。
商工農政課：スマートフォンのアプリやパンフレットの中でコーチンの PR を行っている。小牧市とは違い市内の養鶏場で育てたコーチンを販売しており、この点をもっと PR していきたい。
委員：企業誘致条例について検討するとなっているが、これはどういう方向になるのか。

総務部長：現在、進行が少し遅れている。誘致を進めるうえで市がどのようなことが行えるのか検討を進めていく。

委員：早めに方向性を決めて条例の策定をやるべきである。

5 7. 広報・ホームページ等の活用による財政情報の提供

関連質疑なし

6 4. 市民参加や市民協働等を推進するための各種個別条例の制定

関連質疑なし

6 5. 委員選出における市民登録制度の実施

関連質疑なし

7 2. 受益者負担の適正化

関連質疑なし

午後 5 時終了